

鉄道の技術と文化を“未来”へ 参加体験型ミュージアム「鉄道博物館」

次世代の子どもたちが自発的に学び、考え、行動する“場”づくりをめざし、2007年10月14日、埼玉県さいたま市に「鉄道博物館」を開設しました。



鉄道技術と文化への理解を通して、来場者が自ら学び、考え、行動する——JR東日本設立20周年記念事業のメインプロジェクトとして誕生した「鉄道博物館」は、(財)東日本鉄道文化財団により運営され、貴重な鉄道文化遺産に加え、さまざまな参加体験型の展示が話題を呼び、連日、ご家族連れなど多くのお客さまでにぎわっています。

鉄道博物館は、3つのコンセプトを掲げています。

- ①日本および世界の鉄道に関わる遺産・資料に加え、国鉄改革やJR東日本に関する資料を体系的に保存し、調査研究を行う「鉄道博物館」。
- ②鉄道システムの変遷を、車両等の実物展示を柱に、それぞれの時代背景等を交えながら、産業史として物語る「歴史博物館」。
- ③鉄道の原理・仕組みと最新(将来構想を含む)の鉄道技術について、子どもたちが、模型やシミュレーション、遊戯器具等を活用しながら、体験的に学習する「教育博物館」。

知的好奇心の芽を未来につなぐ

館内は、それぞれにテーマ性を持たせた6つのゾーンから構成されています。

ヒストリーゾーン

御料車6両を含む35両の展示車両や精巧な縮小模型、さらに当時の情景などを再現展示し、明治初期から現代までの鉄道技術や鉄道システムの変遷・歴史をわかりやすく紹介しています。



エントランスゾーン

200系新幹線電車やD51形式蒸気機関車の運転台をそのまま用いた運転シミュレータ(写真)ほか、国内最大の模型鉄道ジオラマなどがあります。



コレクションゾーン

交通関連の貴重な資料を閲覧できるライブラリーと企画展で賑わうスペシャルギャラリーなどがあります。

ラーニングゾーン

駅係員・車両検修係員・車両デザイナーの仕事を模擬体験できる3つのラボ、鉄道のメカニズムを体験学習できるコーナーなど、子どもたち自らが触れて学ぶ体験参加施設があります。

パークゾーン

屋外スペースには、本物の鉄道と同じような信号保安システムで運転できるミニ運転列車を運行させているほか、貴重な車両が動態保存されています。



ノースウィング

180名を収容する鉄博ホールなどがあります。